



光受寺通信

R.4年6月1日 発行
発行元 光受寺
<https://koujyuji.com/>

「核爆弾」に「生物化学兵器」、これは戦争を想定して開発されたものに間違いはない。核保有国が核を持つことを正当化しようとする苦し紛れと思える理由には、戦争を起こそうとする国への抑止力のためだという。核武装することで他の国を沈黙、屈服させようとするのは、その国が世界の独裁的立場立っているということにほかならないのではないか。それが自国民か、世界の国々へ向けてのものかだけの違いであって、いわゆる独裁国家と言われる国であってとしても、そうでない核を保有する民主国家であっても、この一点からすれば、何ら違いはないだろう。

アメリカの銃社会にも大いに疑問を持つところである。いかに保身のためとはいえ、使えば人を殺すことになる。銃も核も立派な人殺しの武器である。

仏法に乞う。歎異抄(聖典634)には「さるべき業縁のもよおさば いかなるふるまいもすべし」とある。私たち一人ひとりに深くその自覚を促す言葉して述べられているのであるが、人間は切羽詰まれば、誰しもが何をしでかすか分からない存在であり、可能性をひめているということである。核も、銃も、所有している以上、縁が熟せば容易に使われることは想像ができるのである。

今、ウクライナでの戦争において、ロシア側の「核」の使用の可能性に全世界が怯え、侵略への対応に軍事力の強化、あるいは核保有に向けての思いが強くなってきていることは、大きな不安をいだかせるものである。唯一の被爆国としての日本においては、核武装することはないことは分かっている、でも、「さるべき業縁のもよおさば」がとても気になる場所である。

人類の未来において、「核」がほんとうに必要なのかどうかは、エネルギー問題も併せて考えてみれば、とても複雑で難しい問題があると思われるが、今に生きる私たち人間が責任をもって解決しておかなければ地球そのものの未来は見えてこない気がするのである。

雑談日和

いちよひついで話

長引くコロナ感染状況に、ウクライナ問題と様々に起こってくる暗いニュースに気がめいってしまう昨今ですが、先日、月命日お伺いした折、奥様から心温まるお話をお聞きすることができました。

奥様は大手スーパーへお勤めになつていらっしゃるのですが、仕事に少年から急に声を掛けられたというのです。

「じゃがりこ」どこにありますか？奥様は忙しい最中ではあったのですが、一緒に探してあげたというのです。広い店内なので大変でしたが、やっと見つけられた時は満面の笑顔でうれしそうにいました。そして別れ際に「ありがとう」「お仕事頑張ってくださいね」と言ったのだそうです。

ありがとう。までは普通に帰ってくる言葉ではあると思われたのですが、お仕事頑張つてね、とまではこの少年から期待はしていなかったと言われました。この一言でなんだかうれしくなつてしまつたというのです。仕事の辛さも何となく和らぎ、「こんな子供たちが未来も背負ってくれるのだと思う」と明るい思いにもなり、元気が湧いてきたのでした。

人と人との何気ない会話が心を潤させ、優しい気持ちも生まれ出てくるものだと思われたのです。

アジサイの季節になりました。

光受寺の境内ではヤマアジサイを主に育てています。数十種類ありますが、5月初旬から咲き始め、墨俣のアジサイ祭りの頃には花の盛りは終えています。小さなものは2〜3センチほどですので、庭での存在感はほとんどありません。鉢植でも多く育てています。



藍 姫



小次郎

機会がありましたら、是非お越しください。



木像より絵像、絵像より名号と言われますが

蓮如上人の言葉に「木像より絵像、絵像より名号(南無阿弥陀仏)」とあります。これは木像よりも絵像が尊んで、絵像より名号の方が尊ぶということなのでしょうか。ちなみにほとんどのお寺においては木像の阿弥陀さまを「本尊」としておられます。蓮如上人の言葉をそのまま受け止めると単に優劣をつけているようにも思えてくるのですが、真意はどのようなものでしょうか。

それは物やその価値に与らわれる私たちを戒める言葉ではないかと思われるのです。いずれの場合であっても、それは阿弥陀さまの知恵とお慈悲が、私たちのために形となって現れてくださったのであり、お軸掛けの裏を見ても「方便法身の尊形」という言葉が書かれているのは、そのような意味からだと考えられるのです。木像、絵像のお姿は右手は「真実の世界」へ導くという願いを、左手はすべての人を必ず救い取るという願いが現わされているのです。私たちは形になって現れてくださったお姿を通して、阿弥陀さまの心をいただき、その徳を讃えて、お念仏申す身とならせていただきますように。

今月の掲示板

知らない

しるしをよむ

知ること

しるしをよむ

人間をせよめぬのです。

向城 頌

知ることしるしをよむは、知識としるしをよむです。知識を持つことしるしをよむは決して悪いことではありませんが、時に知識におぼれ、頑なさや、傲慢の心を生み出すものです。真実の教えを聞く私たちも例外ではなく、常にその危険に隣り合わせなのです。

あの無学文盲と言われた人の中にこそ、多くの「妙好人」が輩出されたという事実は、そのことを如実に物語っているのではないのでしょうか。

新コーナー

十二回連載 樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねよう

— 問い続ける歩みをこむこー

2回目



こころの散歩



光受寺御遠忌法要



「こころの散歩」

誤解されがちな歎異抄 樹林

歎異抄は、大谷派宗務の改革運動を展開した清沢満之が「宗教史上まれにみる優れた宗教的古典である」と絶賛しました。現在も他力仏教理解の入門書として広く読み継がれています。歎異抄は異端に対する批判書であり、親鸞聖人の思想を体系的に語ったものではありません。このため有名な第3帖の「悪人正機」説は親鸞聖人の一部ではあっても、中心思想とは言えないと思われれます。

親鸞聖人の中心思想と言えれば、やはり「二種回向」だと思われれます。教行信証の教の巻には「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり、一については往相、二については還相なり」とあります。この二種回向こそが浄土真宗の中心思想であるといえます。

教行信証・証の巻には「還相回向」というのは、すなわちこれ利他教化地の益なり」とあり、往相回向によつて大乘仏教菩薩行が成立することになります。このようにすることで、悪人正機にのみとらわれるのは片手落ちと見なければなりません。

学習会 十一日(土) 午後六時半より
茶話会 毎週金曜午後一時半より